

平成二十六年 度 「日刀保たたら」 火入式及び操業開始

去る平成二十七年一月二十一日(水)、島根県仁多郡奥出雲町大呂の「日刀保たたら」において、本年度初の火が入り、火入式が行われ、操業が開始されました。

操業回数は本年度も三代(三回)行い、伝統技術の円滑継承と各養成員の着実な技量向上が育まれ、後継者も育っており、文化財保護法第一四七条選定保存技術」の趣旨に則した運営を行小野会長による挨拶



っております。このような重い使命を背負った「日刀保たたら」は、二月七日までその操業を行い、この負託に応えることができました。本年は昨年以上に降雪に恵まれない年となり、一代目・二代目はほとんど雪もなく、村下及び養成員は体調管理に苦労しました。その三代の操業を経て日刀保たたらは、操業回数は、復活以来一五〇回に迫ろうとしています。

木原・渡部両村下による砂鉄装入



火入式は、一月二十一日午前十時三十分、小野裕会長、飯田俊久学芸部長、黒滝哲哉たたら課長の列席のもと神事で幕を明けました。この他に来賓として、日刀保たたらの前身である靖国たたらを運営していた靖国神社からは、徳川康久宮司と野崎竜太権禰宜が、また、奈良県指定無形文化財保持者月山貞利刀匠が出席され、操業開始以来、本事業に技術援助として運営してきた株式会社日立金属安来製作所佐坂克郎代表取締役社長が、地元からは奥出雲町勝田康則町長らが出席されました。

三上・堀尾両村下代行による砂鉄装入



が始まりました。式典中の小野裕会長の挨拶では、関係者への謝辞と共に昨年来行われてきた地下構造改修工事に言及し高品質の玉鋼が生み出されること、映画「たたら侍」への期待などが語られました。また、木原・渡部両村下の薫陶を受けた村下代行二人体制は、高い技量を身につけつつある後継者の順調なる育成に大いに寄与しています。ものづくりの原点のひとつであり、かつ最前線としての「たたら」という技術の重要性を再認識し、これを着実に継承し前進させるために、日刀保たたら関係者は日々研鑽を積んでいく所存です。

ノ口の排出

